

第10章 呑川の未来

2. 行政（大田区&東京都）による未来像

川の管理主体者については、呑川は2級河川なので東京都になります。また川の主な行政区間としては大部分の区間において大田区も直接の地元自治体であり、また都からの委嘱を受け、日常の管理を中心に責任を負う立場でもあります。よって呑川の未来についてこの東京都と大田区がどのような未来像を描いているか、またその実行の仕組みはどうなっているかについて調べました。

（1）東京都では

東京都及び各行政の河川の改修等の計画は河川法（新河川法—1964（昭和39）年制定）に基づいて行われています。従来では主に治水、利水の整備等が図られてきましたが、現在の河川は、治水・利水の役割を担うだけでなく、潤いのある水辺空間の多様な生物の生息・生育環境として捉えられ、また地域の風土と文化を形成する重要な要素として、その個性を活かした川づくりが求められています。1997（平成9）年の改正では、「河川環境の整備と保全」を目的に追加し、さらには具体的な河川整備の計画の策定にあたって地方公共団体、地域住民の意見を反映する手続きを導入する等、時代の変化を踏まえた新しい河川行政の基本的枠組みが定められました。

これを実施する形で都管理河川について、「河川整備基本方針（二級河川）」、「河川整備計画（一級・二級河川）」を順次策定し、実行へと繋げられる制度が実施されることになっています。

a. 呑川の河川整備計画

具体的に呑川の計画はどうなっているのでしょうか、現在の整備計画（2017（平成29）年版）での主な点を挙げると、以下の記載となっています。

— — — — —

第3章 河川整備計画の目標に関する事項

（将来像）

呑川は、さまざまな都市機能が集中する首都東京を支える基盤として、洪水や高潮などによる災害から都民の生命や財産などを守る大きな役割を担っている。そのため、将来的には流域全体で1時間あたり100mm規模の降雨に対応できるよう治水水準の向上を図る。・・・（省略）・・・さらに、各々の川がそれぞれの地域に活着していることを踏まえ、その地域の個性を活かしたものとすることが必要である。このため、地域の人々との協力を通して、「地域に活きた親しめる川の復活」を進め、望ましい川の姿を実現していく。

（計画の基本理念）

呑川は高度に市街化された地区を流れる都市河川であることを考慮し、治水上の安全性を確保するとともに、地域住民と協働して河川環境の向上に努めた川づくりを進めていくことを基本とし、「災害に対してより安全であり、人々に親しまれる水と緑の憩いの場となる川をめざして」を計画の基本理念として河川の整備を実施していく。

・・・（省略）

（2）河川環境の整備と保全に関する事項

治水や河川管理上支障のない範囲で、生物の生息・生育環境を作り出し、良好な河川景観・親水空間を創出するなど、河川環境の向上を図ることを目的とする。特に下流部においては、「呑川水

質浄化対策研究会」や地元住民等と連携しながら、水質改善に努めていく。・・・・（省略）・・

- ① 管理用通路、護岸の緑化等 管理用通路や護岸等について、関係自治体と連携し、河川管理や治水安全性との整合を図りながら、動植物の生態系や景観に配慮して、可能な範囲で緑化を行う。また、既に緑化した箇所においては、呑川沿いの景観を楽しみながら散策等ができるよう、河川管理や治水安全性との整合を図りながら、その保全に努める。
- ② 親水性を確保するための取組 呑川は大田区景観計画において、景観上重要な河川として「景観重要公共施設」に位置付けられている。また、重点的に景観づくりを推進すべき地区として「呑川景観形成重点地区」に 指定されており、一定規模以上の開発行為等に対して届出制度による景観誘導が行われている。このようなまちづくりの取り組みと連携を図り、人々が集い、にぎわいが生まれる水辺空間の 創出を目指す。また、水辺へ近づくことが可能な親水護岸を既に整備した箇所においては、その保全に努め る。
- ③ 生物に配慮した取組 砂礫を敷いた窪地の整備など生物の生息・生育・繁殖環境に配慮した箇所については、治水上の安全性を確保できる範囲で、その保全に努める。

— — — — —
以上の内容となっていて、大きな方向性として賛同できる内容ですが、私達としてはこの内容が早期に実現するように、働きかけを行っていく所存です。

（２）大田区では

大田区では呑川を含めた街づくりの全体のビジョンとして、次の計画体系の中で組み立てられているようです。

a. 大田都市づくりビジョンー 2030 年代の将来像（2017（平成 29 年）版）

このプランでは、区内の主な街区ごとに重点地区を指定して改善を進める内容となっています。蒲田駅周辺地区の課題に次の項目の記載があります。

- ・呑川水質浄化対策
- ・呑川緑道の整備による潤いのある水と緑のネットワークの形成

池上駅周辺地区の対応すべき課題に以下の記載があります。

- ・呑川緑道の整備による潤いのある水と緑のネットワークの形成

b. 大田都市計画マスタープラン（2011（平成 23）年版）及び同改定版骨子（2021（令和 3）年）

現在のマスタープランには「緑豊かで良好な住環境をもつまちづくりー水と緑の潤いのある環境づくりー水と緑のネットワークの形成ー ・呑川緑道の整備を促進し、区民が呑川に親しめる、潤いのある水と緑のネットワークの形成を図ります。」とあります。また、「景観づくりー地域特性と資源を活かした景観づくりー ・呑川などの河川や旧六郷用水などのかつての水路沿いは、緑道整備などにより、市街地の中で自然を感じられる潤いと憩いの空間

としての活用に努めます。」とあります。地域別構想の内、蒲田地域の中で「快適な環境づくりの課題ー水と緑の保全と創出ー公園や緑地の整備、街路樹植栽の実施、再開発や建物の建替え時の緑化など、緑のある環境づくりに努めています。十分ではありません。都市部の潤い空間確保には更なる緑化が不可欠であり、呑川の親水

性を向上させるなど、残された貴重な水と緑の保全・活用や水質改善が課題となっています。」とあります。

また、「都市計画における重点課題の整備の方向―地域のまちづくり拠点の整備―池上駅及び池上本門寺周辺地区―・池上本門寺及び池上駅周辺については、観光資源としての可能性を高めるため、テーマ性のある地域巡りやサイン整備、呑川緑道の整備を促進して川に親しめる、潤いの水と緑のネットワークの形成を図るなど、歩いて楽しめる空間づくりを検討します。」ともあります。

c. 大田区景観条例に基づく呑川流域の景観規制について

この大田区景観条例は区内の魅力的な

＜「呑川景観重点地区」の範囲＞

景観形成を図るため、景観計画を策定することと条例により景観を守るための規制等を定めたものです。景観計画区域を市街地ごとに区分して特に形成を推進する地区「景観形成重点地区」を指定しています。規制の内容では建築物、工作物、開発行為に関して変更の届出、事前協議等により形態の他、色彩等についても規制が定められています。ここで具体的に呑川流域も個別の形成重点地域に指定されていて、以下の内容になって

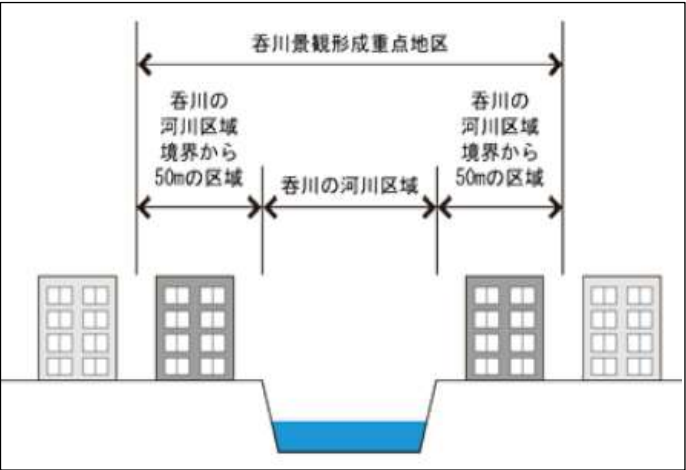
います。

＜「呑川景観重点地域」の基本方針＞

「呑川景観重点地域」:

呑川の河川区域及び河川区域境界からそれぞれ 50m の陸域を合わせた区域（空港臨海部景観形成重点地区の区域を除く）で右記の図の範囲となります。

では、この重点地域での方針はどうなっているかについては形成の方針（景観法第 8 条第 3 項関係）としては図の一覧表を参照ください。



全体方針	<ul style="list-style-type: none">●既存の「呑川緑道軸整備計画」に基づき、緑化の誘導や川沿いであることを活かした景観づくりを進めます。●流域の崖線や公園・緑地、社寺などつながりを感じさせ、呑川と川沿いの建築物が一体となった景観づくりを進めます。●川沿いの並木を活かし、季節感のある景観づくりを進めます。●地域に応じた川辺の利用を高めるような環境づくりを促していきます。
上流部 (区界～ 第二京浜国道)	<ul style="list-style-type: none">●ランニングや散歩など川辺の緑道を快適に利用できるような環境づくりを行います。
下流部 (第二京浜国道～ 京浜急行線)	<ul style="list-style-type: none">●ランニングや散歩など川辺の緑道を快適に利用できるような環境づくりを行います。●南北崖線を望む眺望点からの見通しを妨げないように配慮します。●商店街に面する場所では、川沿いとの回遊性を高め、川辺を魅力に取り込むようにしていきます。
河口部 (京浜急行線～ 河口)	<ul style="list-style-type: none">●川沿いの公園や、川辺を眺める場となる橋梁を拠点として、川辺に親しめる環境づくりを工夫していきます。●川辺の土地利用に際して、川に近づける場づくりを誘導していきます。

また、ここで例えば対象の建築物についてはどのような規制を基準とするかについては、以下参照ください。

○ 建築物の建築等 ＜建物の景観形成基準＞

届出対象行為：

建築物の新築、増築、改築もしくは移転、外観を変更することとなる修繕もしくは模様替または色彩の変更

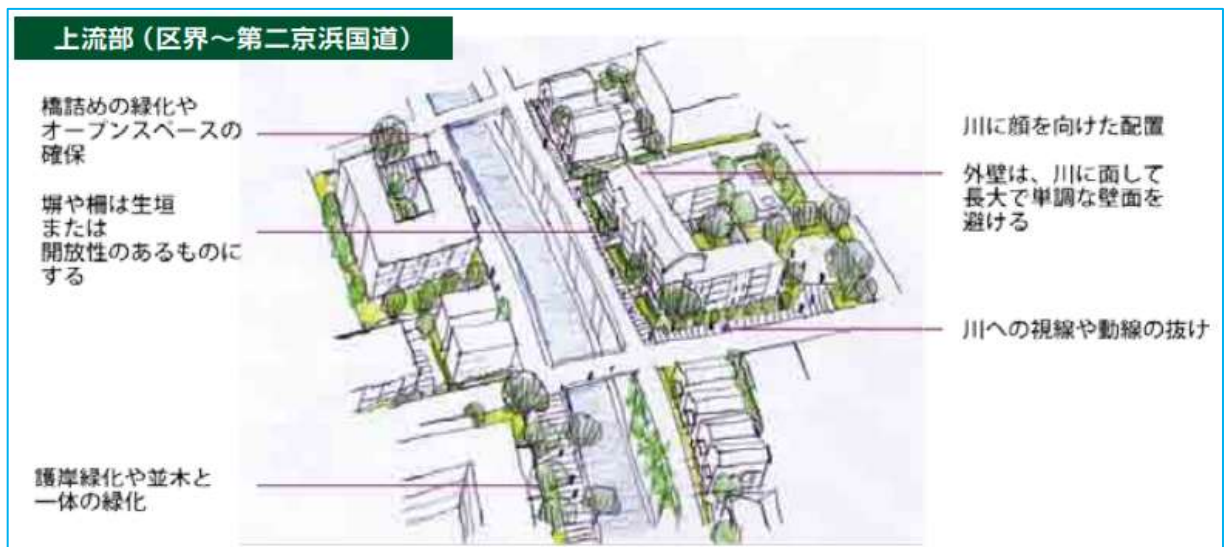
届出対象規模：高さ≧10m
又は延べ面積≧1,000 m²

景観形成基準：図を参照

配置	<ul style="list-style-type: none"> ● 呑川にも建築物の顔を向けた配置とする。 ● 川沿いから崖線の緑や寺社などを望むことができる場所では、その見通しに配慮する。 ● 呑川への視線や動線の抜けに配慮する。
高さ・規模	<ul style="list-style-type: none"> ● 高さは、周辺建築物群のスカイラインとの調和を図り、著しく突出した高さの建築物は避ける。 ● 呑川沿いの散策路や周辺の主要な眺望点(水上、対岸、橋梁など)からの見え方に配慮する。
色彩・形態・意匠・色	<ul style="list-style-type: none"> ● 色彩は(P144)の色彩基準に適合するとともに、呑川、周囲の建築物や緑との調和を図る。 ● 水上、河川沿いの道路(緑道)、対岸、橋梁からの見え方に配慮する。特に橋詰めの敷地では、川や道路、橋梁からの見え方に配慮する。 ● 外壁は、呑川に面して長大で単調な壁面になることを避けるなど圧迫感の軽減を図る。
公開空地・外構・緑化	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑化に当たっては、呑川の環境に配慮する。 ● 呑川に面する塀や柵は、できる限り生垣又は開放性のあるものとする。 ● 夜間の景観を落ち着きあるものにするため、過度な照明を呑川に向けないようにする。 ● 川沿いに駐車場等を設ける場合は緑化等を積極的に行う。 ● 呑川の護岸緑化、呑川沿いの並木など一体になった季節感が感じられる緑化を進める。 ● 橋詰めの敷地では、川や道路に面して緑化やオープンスペースを設けるなど工夫する。

具体的な各地域のイメージも掲載されています。

上流部の例：下図参照



d. 大田区緑の基本計画に基づく ― グリーンプランおおた ― 「呑川緑道軸」の指定

大田区では前述の計画の他「大田区緑の基本計画」（1999(平成 11)年）の下に「グリーンプランおおた」（2011(平成 23)年）という区内の緑を計画的に維持、造成して行くための計画があり、この中で多摩川、東京湾運河沿い地区と合わせて水と緑の環境軸―「呑川緑道軸」の指定がなされており、呑川の区内全域がほぼ網羅されています。これに伴って呑川の側道を将来的に拡張できるよう条例により呑川に面する住宅・施設等は再建の場合は、川の境より施設の敷地を 7 m 幅まで後退して建てる旨、指導要綱が定められています。

（3）東京都と大田区の未来像について

以上のまとめの様に東京都や大田区の制度や現在の方針の内容の方向性は、とても同感できるもののように思えます。課題なのはその実効性だと思います。都の河川部には必要に応じて訪問し、意見交換もしていますが、河川の環境面でも改善については単独では予算が付きにくく、洪水対策が中心でその実施に際して予算等に余力があれば実施されるところが実態のようです。

大田区についても同様の面があると思います。内容も総花的で抽象的に思えます。もっと期日を含めた実効性に裏打ちされた長期計画を望みたいところです。

第 10 章 呑川の

未来

1. 呑川をめぐる市民活動

（1）「呑川の会」発足のきっかけ

「呑川の会」が発足したのは、1997（平成 9）年（大田区立池上文化センター）でした。そのきっかけとなったのは、発足の 1 年前、1996（平成 8）年に開催された文化センター企画講座の「呑川から東京の川を考える」でした。

当時の大田区で活動する水辺関連の市民団体は、学者・研究者も集まる一級河川「多摩川」関連の複数

の団体と、区内の公園で活動する「東京港野鳥公園グリーンボランティア」が中心でした。

「都市河川」の愛好団体としては「内川をよみがえらせる会」（増田直也代表）と「呑川の環境を考える会」（山本理平氏代表 2003 年逝去）が活動を始めていました。

また「都市河川」ではありませんが、「六郷用水」の復元に力を注いでいた「大田区郷土の会」の大坪庄吾氏は、小学校の「呑川学習」で、学校と連携する活動をすでに始めていました。

そのような状況の中で、「池上自然観察会」・「内川をよみがえらせる会」・「城南タイムス」・「呑川の環境を考える会」・「非行のない明るい街づくり池上地区」・「歴史教育者協議会」の 6 団体から代表者が集まり、文化センターの事業として全 8 回の連続講座を計画立案したのです。

そしてこれら 6 団体は、講座修了後もっと呑川に関する研究を深めたいと「会」発足に動いたのです。

その時の中心メンバーの活動はめざましく、増田直也氏は、「内川」で川の汚れや悪臭などの対策で行政に積極的に働き掛け、山本理平氏（2003 平成 15 年逝去）は「夫婦橋親水公園」改修にあたり、その計画段階から市民を含めた活動をされていました。

大坪庄吾氏（2016 平成 28 年逝去）は「東京都歴史教育者協議会」（社会科担当の教育者の集まり）の代表しても活動され、「六郷用水」関連の解説書など旺盛な研究活動を進めていました。

そして、ついに 1997（平成 9）年 5 月 8 日、大坪庄吾氏を初代代表として「呑川の会」が発足したのです。

（2）現在の「呑川の会」の活動

- ・毎月「定例会」を開いています。
- ・呑川の上流・中流・下流の散策や、呑川の支流や昔の流れを調査し、呑川の全体像を探求しています。
- ・春はお花見・秋は紅葉・・・「都市河川ウォーク」を行い、呑川以外の川も散策しています。
- ・呑川周辺の小学校と協力して、子どもたちの「呑川学習」をサポートしています。
- ・河川改修を始め、悪臭問題、河川環境を良くする課題など、行政との意見交換も積極的に行っています。
- ・「呑川講座」や各種イベントでの展示など、市民の方に呑川を知っていただく PR 活動をしています。
- ・定期的に「会報」を発行しています（年 4～5 回）。
- ・年会費（2022 年現在）は 2000 円です。（年度途中のご入会は 1000 円です。）
- ・現在の会員数は 60 名前（2022 年現在）です。

（入会のお申し込みは 「呑川の会」HP からどうぞ） <http://nomigawanokai.net/index.html>

第 10 章 呑川の未来



3. 市民が描く未来の姿 — グランドデザイン

呑川の未来の美しい姿について、川に近い住民達が「呑川が今こんな川だったらなあ」あるいは将来的には「こんな川になってくれたら嬉しいなあ」と思われる姿や環境とはどんな姿なのでしょう

か。この点から考えて見たいと思います。

まず川の活かすべき貴重な**本質的**特徴について考えて見ると、一つは「川面の上空に続く開かれた連続した空間を有すること」次に「川の水が本来的に持つ水の流れが人へ与える癒し効果を有す

こと」だと思います。川にしか提供できないこれらの要素を可能な範囲で人々のために活かしてい

方向、それは都市空間で不足しがちな人々の生活への癒しの環境を提供することにあるのではと考えます。東京のように密集した市街地にあっては連続したこのような存在がいかに貴重であるか、都市の住宅街は子供の育成と共にお年寄りを含めた住民の憩いの場を提供できる場でもあって欲しいものです。そのために自然な川に変えることはできなくとも、現在の呑川を部分的にでも自然の川が持つ要素を取り入れて改善して行き、そこに暮らす生き物たちを含めてより豊かな環境を整えて行くことが、今後呑川に期待したい方向だと考えます。

(1) 改善したい分野ごとの課題について

a. 呑川の水質の改善

呑川について意見を聞くと多くの人達が、とにかく臭いの無いもっと綺麗な川にして欲しいと言います。第2章の様に中流域の悪臭を伴う汚濁の改善を、もっと行政に働きかけなくてはなりません。また全体としては流水量をもう少し増やすことができれば、川としての魅力の向上と水質の改善が可能です。

b. 護岸や流れ部分の改善

・護岸

現状の呑川の護岸については、コンクリートの構造壁で造られているところが大部分です。これはもともと歴史的にあまり川幅を取れない場所で、降雨時の洪水対策で最大流量を確保するように構築されたため、やむを得ないと思われますが、見かけから言うと全く無味乾燥な景観を現わしているのが実情です。川を見る際、護岸は川の風情を決める重要な要素ですから、より自然で和める川岸への改善が図られる日を待ちたいところです。

・河床および流れの部分（主に中流から上流部）

川の中の流れの状態は水の清浄さと合わせて、誰が見ても川らしい流れだと思われる川の状態が人々にもうるおいと、気持ち良さを与えることになると考えられますので、実質的に人工的な川である呑川は水量も含めて色々改善の余地が多いようです。またこの面について考える場

合は、特に魚類や鳥類が住み易い川になっているかの点も重要な要素で、この点でも現状の川の形状と状態は可能な範囲で改善される必要が大いにあると思われます。

c. 川沿い道路の改善

川沿いには現在、河川管理用の道路が川下部の区間を除いて両岸に整備されていますが、最大の問題は遊歩道の整備が全区間でほとんど無く、比較的広い道路は車の交通があり、人々が川を見ながら安心して散策を楽しむ環境がほぼ無いこと。片側での少しの区間からでも車の交通規制を初めとする遊歩道の整備を急いでもらいたいと言うのが私達のまず第一の希望です。

d. 沿岸の緑化

川と緑、並木を含めた樹木の整備は川の景観を考えた場合、一体として景観を形作る必須の要素と思いますが、現状では所々の区間では桜を含めた並木の整備がされてはいても、全域を見場合には他河川と比較してもとても貧弱な状況に見えます。目黒川に代表される事例の様に、岸での桜並木の大規模な造成や川の風景を活かす植栽の拡大が期待される余地が大きいと考えます。ただし、この場合は植栽を行うスペースがないという問題が絶対的にあるので、川沿い道路の利用・工夫と合わせた改善が望まれるところです。

e. いきもの環境の改善

川が川らしく存在するには単にその景観だけではなく、本来その環境を利用して生存している魚類や鳥類等の生物達も豊かに生き生きとしている姿が見られるかどうか、また重要な要素だと思います。水質の問題もありますが他の面での生息環境の整備について、更に改善できる余地は現状から考えた場合多いと考えます。

・魚類

呑川に見られる魚ではボラ、コイを中心にアユ等、実際には多種の魚の生息が確認されています。しかしながら特に上流域については、水質は良好であっても川の水深が浅過ぎる等の要因に

より魚影が薄くなっています。河床部の改善等により魚影をもっと濃くすることは可能だと思います。魚たちが増えれば、護岸の改善等と合わせて子供達の川への関心の機会を増やせる等、地域の子育て環境をも豊かにする効果も期待できることでしょう。

・鳥類

野鳥の生息や飛来について、呑川はその見た目の環境に比して意外に豊かだと思います。そ

はカルガモ等の草食性の鳥の餌である藻類がリンや窒素分の多い水の影響で非常に豊富であり、



このエサを求めて冬期は渡り鳥のカモ類が比較的に多く呑川にやって来ること。またその藻類を餌にするボラの群れの遡上がサギ類の餌になり、比較的豊かな食糧環境を鳥達に提供しているからと思われます。し

この事例は「呑川流域ネットワーク協議会」が2018年に約3年以上をかけてまとめた提案からの抜粋です。当団体は呑川の会も参加する呑川の水質や他の課題について、行政への働きかけ等、具体的な呑川の改善へ向けた活動を行っている市民ボランティアの一般団体です。

による増水により、川へ流れだしてしまふ場合が多く、

この点を考えれば呑川には増水時にヒナが避難する草むらも、高台もないのです。（岸は高すぎるコンクリートの壁でヒナには登るのは無理です）このようにもう少しの色々な改善と環境整備で鳥達にとって住みやすい環境を整え、野鳥が集う川にしたいものです。

f. 川や沿岸の複合的利用の促進

川は水が流れる目的以外にも、その環境を利用して地域住民にとってもっといろいろな有益な利用ができる所ではないのでしょうか。今後大いに考えて行くべき課題です。またそのこと

に

よって、川が住民に親しまれ、よりよい環境整備がさらに進む展開を期待したいものです。

（2）市民が描く未来の姿—具体的提案事例

具体的な改善事例の参考として、私たちの仲間で最近まとめた提案事例の中から代表的な事例をご紹介します。



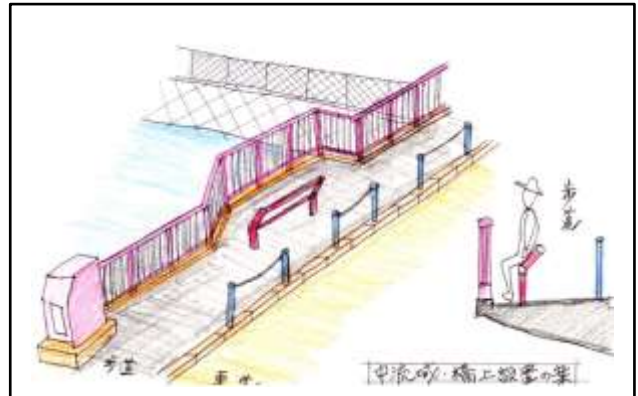
a. 水質の改善

水質の改善については、区や都等の行政の更なる努力を期待する他ないところですが、私達としてはこんなアイデアも提案しています。

<提案事例 ①>

洗足池付近のリニア新幹線避難口より湧水を導入

右図に示すように、洗足池付近に建設中の避難口にトンネル湧水（周囲5km範囲が集められる）が集められ、排水される計画で、その水を道路下配管を敷設して洗足池に誘導し、池の浄化と共に洗足流れから呑川に流下された水により、呑川の浄化と水量の増加をねらう提案です。



<その他の案>

・呑川隣接のマンション等の雨水貯留水を呑川に落水させる様、大田区の呑川周辺施設への指導要綱の改変

b. 護岸や流れ部分の改善

とにかく川と住民との距離を近づけて川についてもっと住民に親近感をもってもらえる様にする対策です。

<図一2>

<提案事例 ①>

川を眺めるベンチの設置

呑川は道路面と水面レベルの差が大きいので、ゆっくり水面を見渡せる場所をなるべく多く作りたい。但し実際には適正なスペースが少ないので、橋を広げて、作る案も提示します。（図一2、3参照）



<提案事例 ②>

<図一3>

親水階段と川面近くの遊歩道の設置

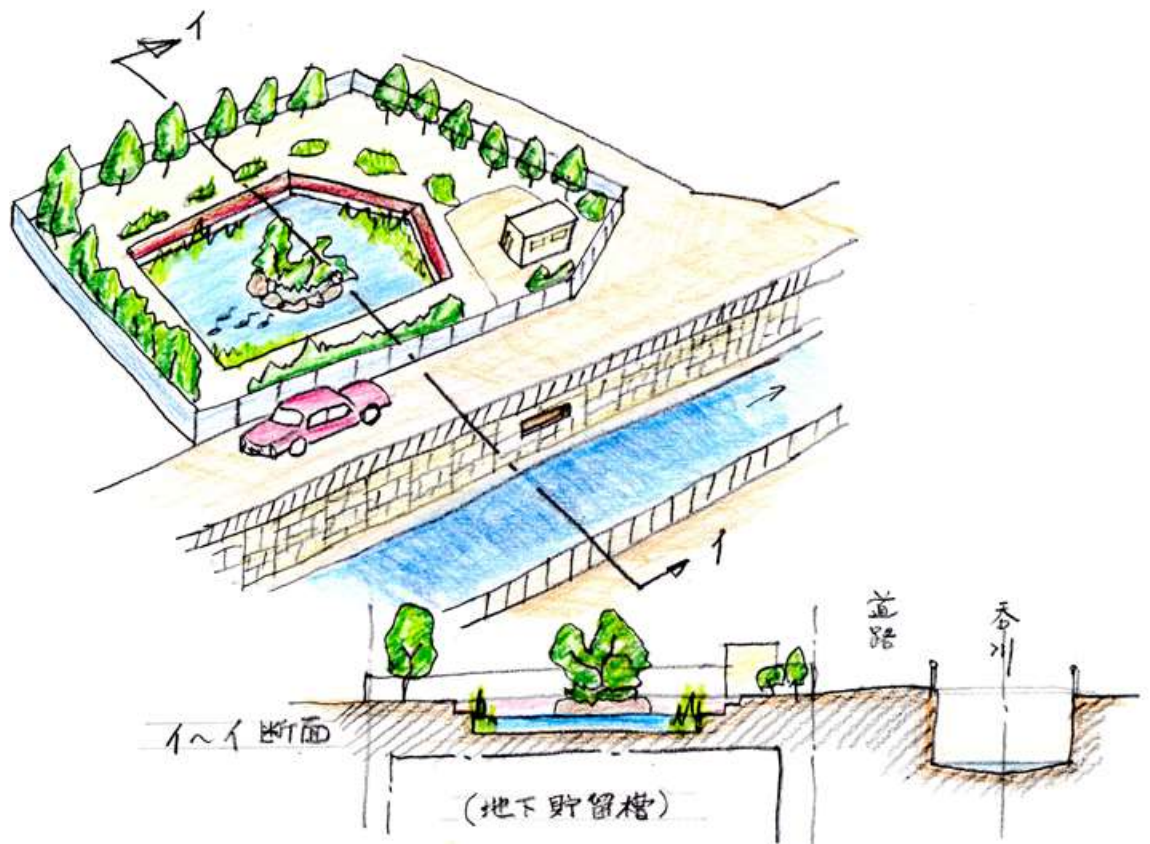
呑川の岸の一部を改修し、傾斜のゆるい親水階段を設置して、人が容易に安全に川面まで降りられる環境を造る。
また可能であれば川床の岸壁付近を改造して遊歩道を造り、川面に接した散歩が出来る様にす

る。

子供達がこんな所で遊べる様になったらいいですね。

<図一4>候補地は側道が比較的に広い久が原、雪谷地区付近になります。





大雨が降っても小魚が流されず、産卵等魚の隠れ家を作るため香川沿いに人口のワンドを造るほか、併せてワンド付近の水辺で子ども達が水遊びが出来る親水公園を造る提案です。

夢のようなお話ですが、多額の工事費を賄うため下層部に将来建設が必要になると思われる洪水対策（降雨 75mm/h 対応）用の地下河川水貯留槽を地下に併設する案を考えました。（図—5 参照）

<提案事例 ④>

J R蒲田駅東口付近に憩いの街造り

現在の蒲田付近の呑川は、それこそ蒲田の市街地の裏を流れ景観としては殺風景な風景です。これではせっかくの駅に近い地域が台無しです。そこで、この周辺での川を活かした街造りの

提

案です。このエリア一帯を川の護岸やフェンス等を一新し、さらに側道の歩行者優先道路や緑化

を行った上、隣接する建物にはしゃれた店舗が並び、呑川を見ながらくつろげる景観ができる

等、人と川と町が一体となる街へと変えていく提案です。

(図一6の赤枠部が対象地区)

<図一6>

<図一7>



c. 川沿い道路の改善

「遊歩道」の未整備と並木等の緑の整備について、上・中流域を中心に遊歩道と並木や植栽帯

の整備を一体的に行う提案をしています。

<提案事例 ①> 遊歩道の抜本的整備 (図ー8 の例参照)

呑川の「上流」から「下流(河口)」まで歩いて散策できるよう、兩岸のどちらか一方は「散策路」として整備する。現在の道路を以下の施策によって車を制限し、遊歩道化へ移行する案です。

＝対応施策＝

- ・「自転車」は通行可とする。「自動二輪」(オートバイ)は通行不可。・居住者用車両、緊急自動車、宅急便業者などは通行可とする。・遊歩道化する場所の選定は、「現在も狭くて車が通れない」「学校の前」「大きな公園の前」などを優先する。・「遊歩道」で無い道路は「一方通行」を原則とする。・幅広道路(7m道路)になっている区間は、川沿いに3mの「歩道」を設ける他、自転車は専用レーン化をする。・「遊歩道」の要所々に、ゆったり休める「ベンチ」を設置する。・「遊歩道」沿いの植栽は重要だが、人も車いすも川を見られるよう配慮する。

(→ 遊歩道整備箇所は図ー8 に ● ● ● 印で表示 参照。)

<提案事例②> 並木や植栽帯の整備を前提にした道路の改善計画

地区ごとに桜並木の整備と、要所々に場所に合ったシンボルツリーを配置する。図中のシンボルマーク参照。

桜並木：新設



既設



シンボルツリー：



<図ー8> 「中流域の案を例示」



道路幅ごとに植栽帯、歩道、車道の配置計画案を提示しました。

- ＜図－9＞ 「例、4 m道路の遊歩道案」

沿岸を緑豊かな環境にして、人々の潤いのある生活環境を演出し、夏は日陰を作り、季節ごとの

や緑の変化で沿道の市民や散歩する人の楽しみを増やしたい。これは生き物や周囲環境にも良い影響を与えることにもなる。実際の改善に当たっては道路計画と一体となって実施される必要があり、提案内容についても同様に考えました。

道路幅が比較的に広く連続的なスペースがある場所には、桜並木を増やす。

その場所に合った大きな木を橋のたもとか橋の中間にシンボルとして植え、全体の景観を良くする。 (例、 ねむの木、こぶし、菩提樹、柳、もみじ 等)

注) 事例①及び②については前記 図-8 を参照ください。

植樹の予算の確保とその後の管理を考えて、広く区民・住民から寄付を募り、ボランティア要員の

募集や管理維持運営を担う団体を作る提案です。

呑川をいきもの達にも生きやすい環境を整えてあげて、本物の川らしい姿を市民に提供できたら素晴らしいと考え、以下いきもの別に改善提案をしています。

- ・ 魚だまり（静水域）の造成

上流域は水深が浅く、

ボラ等の

＜図－10＞

「ミニ堰の例」

小魚は常に遡上しようとしているが、深みや静水域が上流に向かって少ないため、遡上を妨げていると思われます。そこで次の種々の方法で静水域を造成して、魚の休める場所を増やしたい。

- ・ 川床に小さな堰の設置
- ・ 橋の建替え時に川床に深みの確保
- ・ ミニワンドの造成



＜提案事例―魚類 ②＞

流れに瀬と淵を設け変化を付ける

具体的には河床に蛇籠石・礫・岩等を並べ、これにより魚を狙う鳥類も増えるし、呑川を見る人々の楽しみも増える等、川全体の自然度の向上を図る。

＜提案事例―鳥類 ①＞

呑川に生息する鳥類ごとに生息環境を整備して営巣数を増進

・カルガモ ― 呑川近くの池や緑地を整備して営巣場所を確保、ヒナの隠れ場所の確保

・カワセミ ― 魚類の増加策、止まり木等の設置、等。

f. 川や沿岸の複合的利用の促進

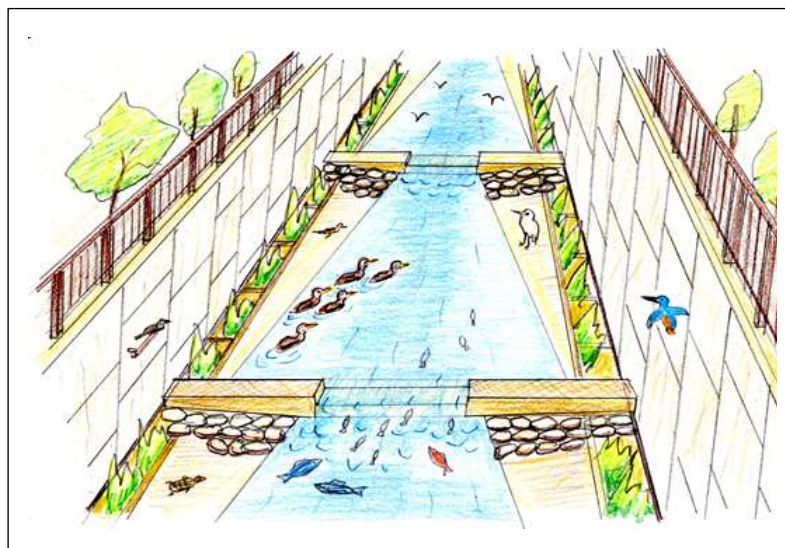
＜提案事例 ①＞

船の利用の推進 ― 観光クルーズ船の誘致

クルーズ船の誘致

東京湾から京急線蒲田駅近くの夫婦橋公園（防災用発着設備あり）

＜図－11＞ 「瀬と淵の例」



までは小型船の回遊は可能な

ので、東京湾を含む観光船の誘致を提案

<提案事例 ②>

呑川歩こうコースの設定

今の呑川でも朝夕等の散歩に沿道を利用している方は多い。遊歩道等を整備すればさらにその利用価値は上がる。